

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 17 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	江波戸 順史
研究課題	①デジタル課税と定式配賦方式 ②最低法人税率と租税競争				
研究キーワード	デジタル課税、独立企業原則、定式配賦方式	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要					
① デジタル課税と定式配賦方式					
研究論文集の出版予定が 2024 年に延期された。これは OECD のデジタル課税に関わる作業が遅延していることが原因である。研究成果を出版という形で表すことはできなかったが、出版の準備は着々と進んでいる。研究の角度を変え、移転価格税制の経験から、デジタル課税に組み込まれる残余利益分割法と定式配賦方式の意義と役割を明らかにしようと試みている。現時点では、残余利益分割法の意義と役割は明らかになった。なお、副産物としてこの研究が下記の教科書におけるデジタル課税の執筆につながった。					
② 最低法人税率と租税競争					
①の研究に時間がとられ、②までは手が回らなかった。					
2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）					
【論文（査読あり）】					
特になし					
【著書・論文（査読なし）】					
栗林隆、山田直夫、原田誠、江波戸順史（2023）					
『財政学 第 6 版』創成社、第 12 章 国際課税、第 13 章 2 デジタル課税					
【学会発表等】					
特になし					
3. 主な経費					
・デジタル課税、国際課税関連の書籍やプリンター用インクを購入					
・新しいプリンターを購入					
4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）					
特になし					
本文は <u>2 ページ以内</u> にまとめること					